

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船医院		
事業所名	グループホーム『おお空』1F青天		
所在地	長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームの現在の特徴として職員が顔ぶれがここ何年、多少の増減は、ありますが殆どの職員が居心地がいいのかホームの理念である「いつも いっしょに いつまでも」の状況が続いています。入居者様・ご家族との馴染みの関係も末永くご家族様の面会においても入居者様の日々の暮らしの様子、どうしても体力衰えて体調不良の報告も職員情報を元にNsが状況を把握し院長指示の重篤なご家族報告も円滑に進めていく事ができています。一方では職員の新旧の変化のない事の将来的な不安を考えると若手人材の急募に今在籍している中堅職員の育成に、今まで培われた知見を生かし若い人が働きやすい環境作りとベテラン職員の温かく見守り育ていける職場を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療法人が、“医療と介護の距離を縮め、切れ目ない関係を築く”ために開設したホームであり、理念「いっしょに、いつも、いつまでも」は、入居者を末永く見守る全職員の願いとして受け継がれ浸透している。その思いは、個別の食事形態による「食べられる能力の維持」、歩行訓練などの「健康維持」、音楽療法などの「心身の癒し」、最終的な「看取り支援」に繋がっており理念の具現化が窺える。また、入居者毎の「私を知る為に」ファイルは日々の会話や生活の中での情報を書き込み、その人らしい暮らし方の支援に繋げていることは特筆すべきである。例年地域行事に参加し、地域コミュニティ連絡協議会設立に向け職員が役員を担うなど地域や行政の信頼を得、交流を深めている。家族へ運営推進会議の議事録を毎回送付し、新型コロナ禍で面会できない中、電話やメールで日常の様子を知らせ、敬老会の様子を撮影しDVDにして送り、安心と信頼を強めている。職員も入居者と一緒に楽しみ、喜び、日々理念の具現化が見えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者に対する尊敬の気持ちは、職員は忘れてはいけない、理念、「いっしょに、いつも、いつまでも」は入居者様に末永く常に家族のように温く見守る職員共有の願いでもある。	理念を根底に、個別の食事形態による食事支援や嚥下体操、歩行訓練など健康維持に努めている。音楽療法や季節ごとの行事では心身を癒し、最終的に看取り支援に及んでいる。入居者は、職員と笑いの絶えない関わりの中で、穏やかな表情で過ごしており、理念の具現化が確認できる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達の関わりは、年通して1月消防訓練・4月・境内の掃除・7月・ペーロン大会・10月の矢上くんち、その他ボランティア慰問の参加協力は継続的に行っている。	新型コロナ禍による自肅前までは、ペーロン大会などの地域行事に参加している。餅つき大会、敬老会などのホーム内行事では地域住民が訪れている他、保育園児の訪問などを楽しんでいる。同地区のグループホームと、花見や茶会などで行き来しており、地域との交流を広げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、コロナ過の影響でボランティア活動・自治会への関わりが中止され、同業者関係者の勉強会までも自肅されたが今後も地域との認知症の交流機会の場や要請があれば関わっていきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議題に対するテーマを予め配布し構成委員としての意見を参考に協議しています年度の最後に年間まとめて議題項目に対して話し合い評価して頂きサービス向上に努めています。	今年度第1回より新型コロナウイルス感染防止のため、書面会議で対応している。運営推進委員へ活動状況報告書を配布した後、書面表決書により決議の確認、感想や意見を得ており、コロナ禍により外出支援が困難な為、気分転換の工夫として外食から出前に変更するなど反映事例がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市に提出する関係書類の不明の点の問い合わせ、構成委員としての運営議題テーマの助言と資料提供してもらうなど協力的に関わって頂いております。	行政から案内がある研修に職員が参加している。更新手続きなど不明な点は、担当課に電話や直接出向いて問い合わせしている。現在、市が主催する地域コミュニティ連絡協議会設立に向け、職員が委員となり活動しており、ホームとして今後も協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍で外部研修もホーム内勉強会ではできていないがスタッフ人々が禁止行為を理解している。玄関については交通量も多い事から入居者様の安全を守る為やもなく施錠をしている。	身体拘束の適正化に向けた委員会を内部研修と併せて3ヶ月に1回開き、運営推進会議で報告している。指針を整備し、テレビ報道などの資料を基にした事例検討や、言葉による拘束など理解を深めている。また、職員同士でも注意し合いながら拘束のない支援に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ過で外部研修・ホーム内勉強会ではできていないが「虐待をしない」という意識は定着している。職員間でもしっかりコミュニケーションを図りストレス軽減に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や勉強会など行い何時でも活用できるようにしているが現在必要とする方は居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様へに事前訪問の際に利用者様の状況把握に努め、入居後に利用者様が不安・混乱がないように余裕をもってご家族が納得理解して頂けるように行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	議事録・年間事業計画を配布し催し物の開催に、おたより・写真・動画をCDにして送付して面会の際に、ご家族と職員の会話も弾みコロナ禍にあって日頃の入居者の生活が垣間見れ家族に喜ばれている。	苦情・相談窓口や手順は明文化し、契約時に家族へ説明している。毎月発行のホーム便りと共にホーム行事へ家族の参加を呼びかけ、運営推進会議議事録を毎回送付するなどホームの理解に取り組み、意見要望の抽出に努めている。コロナ禍では、日々の様子をメールや電話で伝え、また、動画をCDにして届け喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は管理職が状況を把握し理事長へ報告し改善の要求に向けた取り組みはホーム内勉強会で話し合う。職員は協議検討した結果を報告し理解して頂くようにしている。	職員は、毎月のフロア会議や日々の業務の中で意見要望を伝えている。業務に関することはフロア会議で活発な意見交換と協議で検討し、取り入れられている。管理者は気になる職員は個人面談を行い理事長へ取り次いでいる。また、勤務希望など働きやすい職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の高齢化に加えて若手職員が入って来ない現状に介護職員募集を募っている。中堅職員の労働環境の整備と高齢職員の働きやすい環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・研修会参加に介護の質向上に取り組むように通知案内をしている、研修意欲にやる気の有無が感じられ、向上心のある職員の手厚い優遇改善に取り組んでいく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を管理職レベルで定期的に取り組んでいたがコロナ禍においては職員間の交流ができない状況、市GH協議会の今後の方針を踏まえて同業者交流を積極的に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の情報提供に入居者様の以前の生活の状況を把握し、ゆっくりと時間をかけ真意を探り信頼関係作りに職員みんなで情報共有し取り組んでサービス提供に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面談の折に、ご本人様との関係を、どのように願っているのか、入居前後のご家族と、ご本人様の考え方など精神的・身体的な面を把握しサポートしサービス提供につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が、今起こっている現状を理解されているのか？ご家族様の考え思いを尋ね、精神的・体力的な状況を考慮し今できる事は何か見極めサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の好きなこと得意なことを聞いてできる限り好きなことをして頂いている。甘酒やまんじゅう等一緒に作ったり、料理の下処理の手伝い等暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ過で面会制限がある中でご家族様には電話で日々の様子をお伝えし、通院できない場合はお薬を持ってきて頂くなど、共に支え合う関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で面会制限がありご家族様には電話にて日々の様子をお伝えし、かかりつけ医等は関係が途切れないようご家族様の協力も得ながら支援に努めている。	面会には家族の他、親戚や自宅近所の友人知人が訪れている。職員は入居者の生活歴から趣味や習慣を把握し、編み物や菜園の草取り、新聞の購読などホームでの生活に取り入れている。また、自宅近辺へのドライブや年賀状作成を手伝うなど馴染みの関係継続支援に努めている。家族と共に行きつけの理容院へ出かける入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性に配慮してテーブル席を決めたり、孤立されている様子が見られた場合は職員が隣に座り、お話をしたりゲームをしたり入居者様同士の関わりがもてる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去や他の施設への転居の場合でも面会に行ったり、ご家族様に会ったりした際は様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話などで感じとった事などを元に職員間で検討している。	職員は、入居者と向き合う時間を取り、思いや意向を聞き取っている。表出困難な入居者は表情や仕草、家族へ聞き判断している。また、「私を知る為に」ファイルを作成し、入居者との日々の会話の中で得た情報や家族からの情報を書き込み、職員間で共有し、入居者の理解を深めている。聞き取った「したい事」を介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私を知る為に」というファイルに目を通し情報を元に会話を広げながら把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声掛けながら表情や動作の変化に気を配り気づきがあれば情報として職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の日々の様子を観察しスタッフからの情報やご本人様やご家族様から聞き取りを行い、現状に即した介護計画を作成している。	利用開始時に1ヶ月の暫定プランを立て、その後長期1年、短期6ヶ月の介護計画を作成している。本人・家族の希望を毎回面会時や電話で聞き取り、同意を得ている。2ヶ月毎にモニタリングを実施している他、新たに担当制を導入している。ただし、新様式により介護記録の簡略を図っているが、記録内容に介護計画との連動がみられない。	個別の介護計画を基に日々の支援を行い、見直しへと繋げていくことは重要である。旧様式は介護計画と連動していたため、再度職員間で計画に即したケアのあり方を共有し、介護計画の実施状況が分かる記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を毎日記入する事で情報共有が出来見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化があれば直ぐに話し合いその時に必要な支援を行えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達へ認知されるまで至ってないところもあるが、地道に地域のボランティア支援、自治会交流の、境内の掃除活動・ペーロン大会応援・矢上おくち庭先周りの継続的な交流を築いてる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回訪問診療を行っている日頃の体調変化やバイタル等の異常があれば報告対応している。ナース常勤し異常の早期発見対応に努めています。必要時にはナースorご家族対応で他科受診を行っている。	母体法人の医療機関をかかりつけ医としている。週1回往診を受け、常勤看護師が健康状態を確認し、医師への報告等迅速に対応している。継続した他科の通院などは、基本的に家族が同行しており、結果内容を記録し職員間で共有している。看護師による感染症等の勉強会も開いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや業務の中で報告がある為、受診の必要性はDrへの報告もスムーズにできている。Nsは常勤でいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーや日頃の様子を伝え安心した治療ができる様に心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは看取り指針の重度化における医師の説明を明記しているマニュアル体制も備えられ、ご家族の重度化への入居者体調の変化と不安を職員・ナースと連携してDrに報告している。	母体医療法人と連携を図り、看取り支援を行っている。看取りケアの指針を、入居時に家族へ説明し同意を得ている。看護師がアンケートを作成し、職員の不安の声を汲み取っている他、反省点の振り返りや死生学をテーマにした勉強会で知識の共有を図るなど積極的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設の母体が医療機関である為、急変時等、指示を仰ぎ速やかに対応している。マニュアル体制の対応も出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月定期消防訓練を行い6月12月と何れか消防署立ち合いで総合訓練を行っている。 地震・水害の避難誘導訓練は施設に備蓄品を確保して留まる事を視野に検討している。	毎月の消防訓練では毎回火元を変え、搬送方法を確認しながら避難訓練を実施するなど徹底している。年2回総合訓練を実施し、内1回は消防署が立会っている。ただし、自然災害においては、立地条件からホーム内に留まるとした際の独自のマニュアル整備や避難訓練の実施の他、非常持ち出し品や備蓄の整備が十分ではない。	令和2年9月の大型台風では発電機などの対策を図っている。今後の更なる対策として、ホーム独自のマニュアルを整備し、それに基づいた避難訓練の実施と全職員への周知徹底に期待したい。また、非常持ち出し品や備蓄の整備も待たれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室へ入居する際は必ずノックや声掛けを行っている。排泄や入浴等の介助時は羞恥心に配慮して対応している。	職員は入居者の人格を尊重し、声掛けは苗字にさん付を基本とし、居室へ入るときはノックや声掛けをして入室している。また、排泄や入浴介助時は羞恥心に配慮した支援を心掛けている。個人情報の取り扱いは写真掲載を含め、家族の同意の署名を得ている。また、職員は守秘義務を理解し誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望できるよう声掛けを行い、レクリエーション参加等の選択は必ず言っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション行事等その人の意志を確認して参加してもらい楽しんで頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装、爪切りや髭剃りなど行い定期的に美容訪問を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取量と味付けの感想を元にメニューを作成している、できるだけ入居者様達の好物が出せる様にしている季節の行事等の時は饅頭やケーキ作りを楽しんで頂いている。	献立は職員が入居者の希望を取り入れて作成し、視覚や味覚、食べる力の維持を考え、調理している。入居者はテーブル拭きなどを手伝っている。行事食や弁当、バイキング形式や「母の日喫茶」で好きなおやつを選ぶなど多彩な楽しむ工夫があり、ちまきや甘酒、菜園のさつまいものスイートポテトなど職員と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自に応じた食事形態や器にして対応している、摂取量・水分量はチェック表に記入し少ない方には好みの物に変更し少しでも摂取量を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。介助必要な方にはスタッフが入れ歯洗浄や糸ようじ歯磨きなど個々に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し定時的に声掛けを行っている立位困難な方は介助を行いトイレで気持ちよく排泄できるようにしている。	職員は排泄チェック表を基に、入居者の排泄リズムを把握、共有し、日中はトイレでの座位排泄を基本として支援している。ポータブルトイレ使用後はその都度処理している。職員は、入居者の排泄状況を話し合い、自立に向けた支援方法の検討を行っており、おむつからリハビリパンツに、リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し便秘を解消するため牛乳やヨーグルトを提供している排便がない日が続いている場合は主治医の指示を受け対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望通りに合わせることは難しい体調を見て入浴の声掛けし、本人の意思を尊重し支援している。	入浴は月曜日から土曜日の週6日準備している。週2、3回を基本とし、状態や気分が入浴できないときは曜日を変えたり清拭を行っている。車椅子利用の入居者はシャワー浴や湯に浸るなど状態に応じて対応している。個人の希望のシャンプー類の持ち込みや同性介助に対応し、ゆず湯や菖蒲湯など入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のリズムに合わせて安心して過ごせるよう支援している。夜間パジャマで更衣手伝い安楽に休んで頂くようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのスタッフが一人々の内容の把握ができていないNs不在の時でも薬が分かるよう内容のリスト等を分かる処に置き把握できるようにしている。薬の変更等あれば申し送りや薬袋の訂正を行い周知につとめている。都度症状と内服について指導等行っている。(Ns)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を見て力を活かすことができるよう支援している。気分転換にカラオケ・パズル・トランプ等楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は外食行事・ドライブ時には買い物に同行して頂いたりして外出する機会を設けていた。コロナ禍において現状、外出支援は控えている。	季節の花見や地域の行事見物、水族館など企画を立て、車椅子の入居者も一緒に出掛けたり、職員や家族同行で買い物やドライブへ出かけていた。新型コロナ禍の中では、屋上での散歩や日光浴、菜園の草取りや収穫などで気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はご本人様には混乱に繋がり所持させていません。時々「お金を貸して？」訴えられる事もありますが、預り金として何時でもお出しできると安心して頂き、身の回りの必要な物があればご家族の方に相談して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングには電話があり希望があれば何時でも使用して頂いたり、できない方は職員が対応してかけられる様にしている。季節の節目にハガキや貼り絵や絵に色を塗って頂きご家族に出している。お返事が来たら直ぐに本人様にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒事故がないように床に物を置かない。天候不順・時間帯に配慮し電灯の調節を行い四季折々の掲示物で、入居者様には居心地よく過ごせるように工夫している。	リビングは採光良く、菜園が見渡せる他、ピアノを備え、外部講師の音楽療法など憩いの場となっている。テーブルを囲み入居者が顔を合わせ寛ぎ、オープンキッチンから食事作りの音や匂いを感じることができ五感を刺激している。職員は、行事の写真や季節の飾り等を掲示し、毎日の清掃等、居心地よい環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人々思いがあり気の合った入居者同士が楽しく過ごせるように配慮している。入居者様の中には一人でゆっくりと過ごしたい方もおられ、お昼寝・お話し・洗濯物たたみ等、ご本人に合った過ごしやすい工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が今迄、愛用されていた家具・写真・飾り物等を置いたりして落ち着いて過ごされるように工夫をしている。	持ち込みは自由で、使い慣れた家具や衣装ケース、家族の写真、ぬいぐるみなど馴染みの物を配置し、造花や自筆の習字を飾り個性豊かな居室になっている。面会に訪れた家族が確認できるバイタル記録や家族との連絡ノートも備えている。職員は換気や温度調節、清掃を行い、気持ちよく過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内には手摺が居室を出ると配備され不安・混乱の移動には職員が寄り添いご本人様にあった歩行の自立支援している。居室で一人で安全に過ごせるように入居者動きの共有的な状況把握を職員は理解し安全面に工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270105077		
法人名	医療法人秀和会 釣船委員		
事業所名	グループホーム『おお空』2F満天		
所在地	長崎市かき道1丁目29番8号		
自己評価作成日	令和2年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の医院が母体のグループホームです。常勤で看護師を配置しており、看・介護職員 協働し入居者様の体調管理に努めています。入居者様にとって、ホームが穏やかで安心できる場所であることを目標に、職員一同 介護技術、認知症ケアのスキルアップを目指し精進しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”いっしょにいつもいつまでも”当事業所の理念です。楽しいこと悲しいこと、不安な気持ちに寄り添い日々の生活を繋げていくこと。全職員共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会会員として地域の清掃活動、消防訓練等に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、地域で推進している地域コミュニティ連絡協議会設立に向けて、当ホームも地域の事業所として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行っている。コロナ禍の中で、現在 書面で利用者の生活の様子、職員の支援状況を報告し、構成委員の方より意見等を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	原爆（拡大）手帳の更新他手続き、介護保険関係も含めて、疑問や相談は行政の担当者へ電話、又は直接窓口へ行き助言を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一度、身体拘束に関する勉強会を行っている。又、外部の勉強会にも必ず参加し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、毎年ホーム内勉強会を行っている。又、業務中でも職員が対応に苦慮しているなど感じたら、別の職員にバトンタッチし対応している。イライラした時には、6秒ルール！と励まし合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を毎年行っている。以前、利用者の中に成年後見制度を利用していた方がいらしたが、現在はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様へに事前訪問の際に利用者様の状況把握に努め、入居後に利用者様が不安・混乱がないように余裕をもってご家族が納得理解して頂けるように行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	議事録・年間事業計画を配布し催し物の開催に、おたより・写真・動画をCDにして送付して面会の際に、ご家族と職員の会話も弾みコロナ禍にあって日頃の入居者の生活が垣間見れ家族に喜ばれている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望は管理職が状況を把握し理事長へ報告し改善の要求に向けた取り組みはホーム内勉強会で話し合う。職員は協議検討した結果を報告し理解して頂くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の高齢化に加えて若手職員が入って来ない現状に介護職員募集を募っている。中堅職員の労働環境の整備と高齢職員の働きやすい環境整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・研修会参加に介護の質向上に取り組むように通知案内をしている、研修意欲にやる気の有無が感じられ、向上心のある職員の手厚い優遇改善に取り組んでいく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を管理職レベルで定期的に取り組んでいたがコロナ禍においては職員間の交流ができない状況、市GH協議会の今後の方針を踏まえて同業者交流を積極的に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず事前面談を行い、ご本人の生活状況の確認と、困っていること、不安に思っていること生活に対する意向をお訊ねしている。又、ご本人の発する言葉を大切にし信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、又は事前面談の時にご家族が現在困っていること、不安なこと今までの苦労、ホームへの要望等お訊ねしている。遠慮なく、話せる関係作り信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談があった時に、空いた部屋があるとは限らず、又 待機者もいる中で 今何が必要か？他施設の紹介も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないことが増えていく不安や苦しみに寄り添い、その中で少しでもできることできそうなことに目を向け支援している。職員は常に感謝の言葉を忘れないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	過去の生活状況から、支援のヒントとなる気づきを得ることが少なくありません。職員は、入居者の日々の様子や発する言葉を家族に報告し、情報を共有、チームとして利用者を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他県に住む家族からの電話の取り次、入居前に住んでいた家のご近所の方の訪問が、入居後も続いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士は、自席を近くにして、会話や作業と一緒に楽しむ時間が持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退去後、次の施設での生活の場の移行がスムーズに行えるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴、入居者の発する言葉・表情から思いや意向を汲み取る努力を日々行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も継続して、折に触れ家族に入居者の今までの生活様式、こだわり小さなエピソードを訊ね、これまでの暮らしの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の生活記録、バイタルチェック表必ず、目を通し現状の把握に努めている。又、体調面で特に気になることは、申し送り(看護)に記載し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	隔月にモニタリングを行っている。職員1人ずつ入居者担当制を4月から導入し、細かい気づき等、情報を共有し介護計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・排泄チェック表・バイタル表・食事水分摂取量等、入居者別に記録している。又、特に気になる情報は申し送りノートに記載し情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事の時間に面会があった時には、ご家族の分も食事を用意し、一緒に食事時間を楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者サロンのボランティアを受入れ、入居者は同世代の方との交流を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日々の生活の様子や、病状の変化等家族へ報告し、希望するかかりつけ医への受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置しており、各利用者の健康管理を看護・介護職員 連携し行っている。利用者の細かい病状の変化、気になること、お薬の変更等申し送りノートに記載し情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、担当mswと連絡を取り、今までの生活状況から病状の変化、入院中の様子等、情報を共有し早期の退院に向けての支援を行っている。又、入院中は職員の面会も交代で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでできること、できないことを説明し、重度化した場合はどうすべきか？本人、家族の意向に最大限添えるようチームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者が転倒等、ケガをした場合や急変した場合の対応マニュアルを作成し、フロアに備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月28日に自主消防訓練を行っている。 内、年に2回は消防署員の立会いの下、総合消防訓練を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や人間性に添った言葉掛けを行うように心掛けている。又、おむつ交換等は短時間で言う努力をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつが何種類かあると、どれが良いか選んでもらったり、献立を決める際には何が食べたいか訊ねている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前の生活の流れから、洗濯物が乾くと、進んで洗濯物たたみをしている。又、毎日の日課で夕食後、居室で読経をする利用者もおられる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時等、洗面後は長鏡の前で髪を整えたり、外出や行事の際は、できるだけお洒落をしていただいている。又、2ヶ月に1回の訪問美容では、ご本人の要望に添い散髪を行っています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	摂食機能に合った食事形態で提供し、時には、献立に利用者の希望を反映したり、皆で外食で出かけたりすることもある。食事は、職員も一緒に見守りや食事介助を行い家庭的です。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事形態で提供している。食事摂取量が少ない利用者については、看護師に相談し、高カロリー栄養補助飲料等を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に合わせて、歯ブラシや口腔ケアスポンジ・歯磨きティッシュを使用して口腔ケアを行っている。定期的に居宅療養管理指導を利用し、義歯のメンテナンス 口腔内衛生を保てるよう支援している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握 できるだけ、トイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には、規則正しい食事摂取と水分を摂って頂く為の声掛けを行い、排泄誘導も行っている。個々の排泄コントロール対応も設定されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時、男性職員の介助を拒否される利用者には、当日女性職員に代わり対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり声かけをして、午睡して頂いたり、夜間入眠時は、居室の温度調整や上掛け等本人の希望を聞き安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の薬袋には、薬名と個数が記載しており、服薬時も含めてトリプルチェックを行っている。薬の変更があった時や、症状の変化等、申し送りノートに記入し情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何かしたいことはありますか？の問いに意向を発信できる方が少ないのが現状。コロナ禍の中で、できること、できそうなことを日常の中で見つけ実践しました。洗濯物を畳んだり、おしぼりの準備をしたり、それぞれの力を活かした支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・食事会・ペーロン大会・水族館見学等、外出の企画を立て実施している。又、家族と共に食事や買い物に出かけたりされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は金銭を所持しておらず、預かり金としてホームで、家族よりお金を預かっている。本人の要望や消耗品等で買い物が必要な時には家族に相談の上購入し、毎月残高報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことが難しい入居者もあり、貼り絵等で、個々オリジナルの暑中見舞いの葉書を作成し家族に送付しました。家族からの手紙や電話はその都度、本人に取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で、入居者がゆっくり過ごせるように、温度・光・音・広さ等を調整しています。利用者の中には、エアコンの風やカーテンの揺らぎ等に敏感に反応される方もいて、全員が満足できるようには難しい状況ではある中で、利用者が気持ちよく過ごせるよう季節の花を飾ったり、装飾等に配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	身体を休めたい利用者は居室で休んで頂く。テレビを見たり、新聞を読んだり、入居者の好きな時間にリビングで過ごして頂く。テーブルの席では、気の合う仲間が隣同士に座って頂いたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の今まで使い慣れた家具や家族写真、家族からのプレゼント等を置いたり、落ち着いた気持ちで過ごして頂けるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩ける方には、シルバーカーや手摺りを利用していただき、安全な移動ができるよう、動線に障害物が無いよう環境整備に努めている。		